

⑤ Y
☆ 1

92 A 810.6

特 許 庁
実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告

昭43-29416

公告 昭43.12. 3

(全2頁)

電気掃除機

実 願 昭 40-37443
出 願 日 昭 40. 5. 14
考 案 者 水野元
日立市河原子町1501株式会社
日立製作所多賀工場内
出 願 人 株式会社日立製作所
東京都千代田区丸の内1の4
代 表 者 駒井健一郎
代 理 人 弁理士 高橋明夫

図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例で、第1図は要部縦断面図、第2図は要部説明図、第3図は第2図のA-A断面図である。

考案の詳細な説明

本考案は濾過集塵と遠心力集塵とにより除塵作用を行なうようにした電気掃除機に関し、その目的とするところは集塵袋の目づまりを防止すると共に集塵容積を増大させてすぐれた集塵率を上げるようにしようというところにある。

本考案を以下、一実施図面にに基づき説明する。図面において、1は箱状の掃除機本体ケース（以下本体と称す）で、前車輪2と後車輪3とにより可動自在となしてある。4は仕切板、5は本体1の左側に収められた箱状のパンカーで、このパンカー5は上蓋6と本体1との間に止め金具7、8により挟持される。9は上蓋6に形成された旋回装置で、この旋回装置9は外筒10と、この外筒10の上部外周に形成された吸込筒11と、前記外筒10の内部に、その上面を貫ぬいて設けられた内筒12とよりなっており、吸込筒11内に入ってきた塵埃が内筒12の周囲を十分に旋回して遠心分離作用を行なうようになっている。13は本体1の右側に収められた集塵袋で、この集塵袋13は蓋14と本体1との間に止め金具15、16により挟持される。17は蓋14のはば中央に形成した流入筒で、この流入筒17と外筒10の上面に突き出た内筒12の突出部18とは各々ハンドル19の一端が着脱自在に装設される。ハンドル19は曲管からなり、内筒12から入つて

きた塵埃が集塵袋13内に吐き出させるための連通管の役目を行なうものである。20は内筒12の流入口に設けられた網で、この網20によりパンカー5内の浮遊塵埃が集塵袋13内に流れ込むことを防いでいる。21は集塵袋13の下方に配置される排風電動機22を支持するための固定具23は集塵袋13の支持具で、固定具21に固定される。24は排出口、25はコード収納室である。

以上の構成であるから、排風電動機22を回転させると吸込筒11に流入してきた塵埃は内筒12の周囲を強烈に旋回して、そのほとんどは遠心分離してパンカー5内に堆積される。

遠心分離されなかつた粒状の小さな塵埃は網20—内筒12—ハンドル19—流入筒17を経由して集塵袋13内に吐き出され、そこにて捕集される。

捕集塵埃を廃棄する場合には突出部18と流入筒17とからハンドル19を外した後、まず止め金具7、8を外して上蓋6を開いてからパンカー5を取出し、そのパンカー5内にたまつた塵埃を捨てる。次に止め金具15、16を外して集塵袋13を引つ張り出し、その集塵袋13内にたまつた塵埃を捨てればよい。

塵埃が堆積するパンカー5および集塵袋13をねかせず、立てて配置されるから、捕集塵埃を廃棄する場合に口が上に向いているので、扱いやすく周囲を汚染することがない。

またパンカー5においても、集塵袋13においても塵埃は各々の底から順々に一様に堆積してゆくから、各々の空間を充分に利用することができ、集塵容積が増大される。

なおハンドル19は連通管としての役目を兼ねることにより、全体の構成の簡略化が計られている。

上述のごとく本考案は簡単な構成により、集塵袋の目づまりを早める塵埃をパンカー内に十分に堆積させえる非常に実用的な電気掃除機を提供できる。

実用新案登録請求の範囲

口を上に向けたパンカーと集塵袋とを横に並べて本体内に収納し、さらに前記パンカーの上蓋には外筒と、この外筒の上部外周に形成された吸込

BEST AVAILABLE COPY

筒と、前記外筒の内部に、その上面を貫ぬいて設けられた内筒とからなる旋回装置を形成し、かつ前記集塵袋の蓋には流入筒を設け、この流入筒と

内筒の突出部とに曲管からなるハンドルを着脱自在に装設したことを特徴とする電気掃除機。

図 1

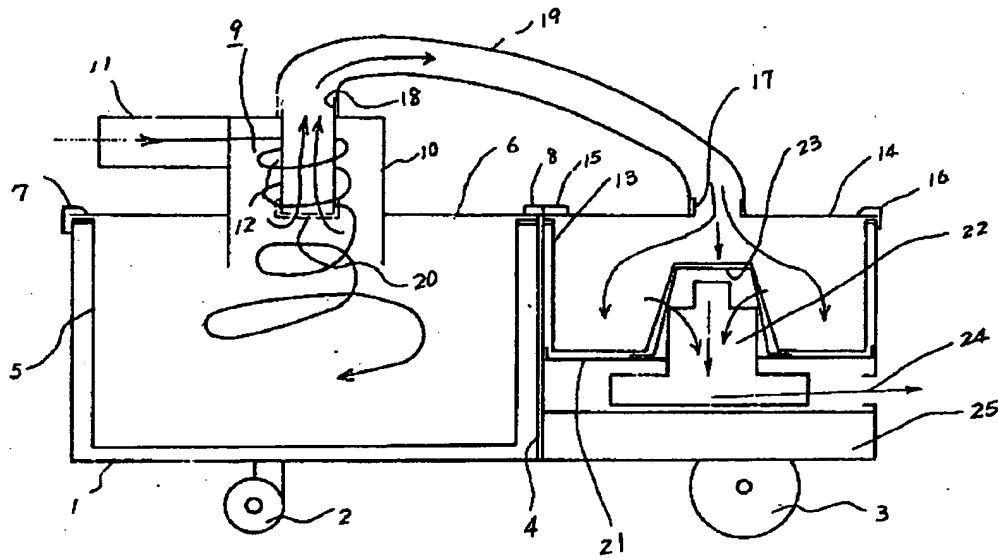


図 2

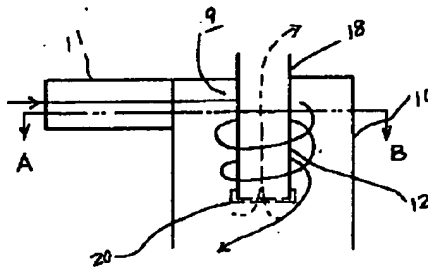


図 3

